「ヘェ、大丸で」
「ア、大丸か、宅の奴が待つてたで奥に居る」
奥では、お糸さん、いまでは病氣も癒り髷も丸髷に結うて臺所廻りの指圖をして居ります。
「お家、今日は」
「どなた、大丸さんか、過日(こないだ)頼んでおいた旦那はんの羽織があつたん」
「先達てのは如何で、隨分澁い柄だすが、一と梱の中で漸々一反有ましたのを持つて參りましたのだすが」
「そうか、それなら彼れを仕立て貰ほか、寸法を間違はん樣に、宅の旦那はんは東京に永らく居はつたんやで、仕立は隨分矢ケ間敷いので其心算で」
「ヘェ承知いたしました」
「ヘェ御寮人さん今日は、毎度有難さんで、小間物屋で」
「小間物屋はんか、此間注文して置いた、珊瑚珠の根掛けと簪は、まだ出來んのんか」
「ヘェ、モウ二三日お待ち願ひます。他に御注文はござりまへんか」
「ア、、おために上げたいので頃合のかんざしを五十程持つて來といと」
「ヘェ有難うさんで直ぐ揃へて持つて參ります。さよなら」

「魚喜よろし今日は、大將今日の鯛生けだす、良う活(い)かつてます。大將に食べて戴うと思ふて買ふて來ました」
「そうか、置いといて、二枚におろして片身造つて、片身鹽燒や、頭は潮煮にする、荒をこなしといて」
「ヘイ……お家今日は」
「魚喜さん、なんやね」
「ヘェ、旦那が食(あが)りまんね、鯛を」
「ア、今日は精進日やで持て歸(い)んどくなアれ、また明日(あした)貰ひます」
「ア、さよか……」
「魚喜なんや、持つて出て來たな、賣れへんのんか」
「イ、ェ、お家が今日は精進日やで持つて歸れ、また明日貰うと」
「宜(え)えやないか、俺が食ふね、だんない持つて這入れ」
「ア、さよか……」
「魚喜さん、また持つて這入つて來てや、今日は先の佛の日や精進やで、生臭い物がちらばるといかんので持つて歸つとくれ、解らんのか」